

## 韓国の英語村の観光戦略

カレイラ松崎順子

### 1. はじめに

韓国では、日本以上に英語教育に力を入れており、英語を習得するために海外に留学する児童や学生も多い。しかし、海外に留学できるのは一握りの裕福な家庭のみであり、それができない多くの家庭との間に英語力の格差ということが問題となっている。このような状況への対策として、韓国国内に英語村などの英語体験施設が設置された（カレイラ、2012）。英語村とは、留学に行くことのできない子どもたちが「擬似外国体験」をできるように施設内では出入国管理事務所を通過して「入国」し、英語で様々な活動を体験できる施設のことである。京畿道に2004年8月にはじめての英語村である「京畿英語村アンサンキャンプ」が設立され、その後次々と韓国各地に英語村が設立された。2011年度の調査では韓国全土で32の施設があることが確認されている（キム、2011）。これらの中で、京畿道の「京畿英語村パジュキャンプ」と「慶尚南道のチャンニョン英語村」は自治体によって運営されているが、その他の英語村は民間によって運営されており、それぞれが地方自治体の援助を受けて経営を行っている。

英語村は良質な英語プログラムを提供しているが、地方自治体からの援助があるとはいえ、参加費用が安いいため、どこの英語村も財政難であるという。ゆえに、近年財政難から脱却するため外国に門戸を開きはじめ、ここ数年日本からの団体による利用が増えてきた。また、日本人を対象にソウルへの観光ついでに英語村のプログラムに参加してもらおうと企画している英語村もある。著者は2011年3月に「京畿英語村パジュキャンプ」と「ソウル英語村ブンナプキャンプ」の2か所の英語村を訪問し、授業を見学し、さらに、担当者に英語村についてのインタビューを行った。本稿はその報告である。

### 2. 「京畿英語村パジュキャンプ」

「京畿英語村パジュキャンプ」（<http://www.english-village.or.kr/exclude/userIndex/engIndex.do>）はイギリスの南部地方ライ村をモデルに、楽しいアクティビティを通して、生活の中で自然に英語と英語圏の文化を学ぶことができる施設である。敷地内には600席のコンサートホールやレストランなどの商業施設を運営しており、英語村パジュキャンプには多くの外国人スタッフが生活している。また、実物大の警察署、郵便局、銀行、入国審査場等があり、そこでロールプレアの授業を行うことができる（図1および図2を参照）。

韓国人を対象にしたプログラムは日帰りのOne Day Programと宿泊を伴うCoursesに分かれており、One Day Programは幼児や小学生や家族連れを対象にしており、料理や工作などをしながら楽しく学ぶプログラムが多い。Coursesには小学生、中学生、高校生、大学生、一般、および英語教師のためのプログラムが用意されている。「小中学生コース」では「英語村パジュキャンプ」に到着すると、子どもたちは宿泊棟で荷物を下ろした後、英語村で生活す



図1 「京畿英語村パジュキャンプ」の宿泊施設



図2 「京畿英語村パジュキャンプ」の入国審査場

るためのオリエンテーションを行い、英語村では常に所持しなければならないパスポートをもらうことになっている。レッスン内容としては演劇、クッキング、ダンス、科学、病院などがある。

以下はある日のスケジュールである

09:00-12:00 ホームルーム、ドラマ、工作、公共施設体験等

12:00-13:00 昼食

13:00-18:00 ドラマ、各種実験、料理、スポーツ等

18:00-19:00 夕食

19:00-21:00 ダンスパーティ、ボードゲーム、映画鑑賞、ショッピング等

「京畿英語村パジュキャンプ」の国際交流の担当者に「京畿英語村パジュキャンプ」について1時間ほどのインタビューを行ったが、一番印象的だったのは、経済的な利益以上に、アジアの様々な国の学生を「京畿英語村パジュキャンプ」に集め、英語で交流できる施設として発展させていきたいと語っていたことだった。「京畿英語村パジュキャンプ」を訪問するまでは、日本においては小学生のツアーが主にテレビや雑誌などで取り上げられることが多かったので、「京畿英語村パジュキャンプ」は児童用の施設であろうと思っていたが、実際に訪問してみるとアジアの大学生を対象にしたプログラムに最も力を入れている印象を受けた。実際に様々な国の大学生を受け入れており、著者が訪問した際にも、タイと韓国の大学生のためのプ

プログラムが行われており、KBS の取材班も来て、その様子をニュースで放映していた。図 3 はその時の授業の様子を撮影したものである。

各国の学生がプログラムに参加する際には、韓国の大学生も同じぐらいの数だけ参加させてくれるということで、韓国の学生と寝食を共にして英語で交流することができる。その際には韓国の学生は無料でプログラムに参加でき、日本人などの外国人には朝昼晩 3 食・レッスン料を含めて 1 泊 2 日 1 万円程度でプログラムを提供できるということであった。アメリカやイギリスなどの英語圏に留学するよりも格安な値段であると思われる。



図 3 タイと韓国の学生の Cooking の授業

### 3. 「ソウル英語村プンナプキャンプ」

ソウルにはいくつかの英語村があるが、その中の 1 つが 2004 年にヘラルドメディアによって運営されている「ソウル英語村プンナプキャンプ」(<http://pungnap.sev.go.kr/>)である。「ソウル英語村プンナプキャンプ」には正規授業の内容を学ぶ「正規プログラム」、低所得者の児童を対象とした「未来希望プロジェクト」、冬休みや夏休みなどの長期の休み期間に行われる「長期休暇プログラム」、平日の放課後に行う「放課後教室」、およびイギリスのサッカーのチームと連携した「少年サッカープログラム」が開催されている。ソウル市によって財政的な援助を受けているため、参加する児童は安い受講料でこれらのプログラムに参加できる。

「ソウル英語村プンナプキャンプ」で行われているプログラムはスポーツ、工作、料理、科学などを英語で学ぶイマージョン・プログラムが多い。そのような学ぶ内容に焦点をあてたプログラムでは、英語の言語形式の習得にのみに焦点が置かれていないため、英語自体に興味のある児童だけではなく、英語にはさほど興味がない児童に対しても、知的好奇心を刺激する情報を与えることができる(カレイラ・大久保・秋山・田邊、2007)

以下は『ソウル英語村プンナプキャンプ』の教育方針である。

- ・日常生活体験：海外旅行、留学や語学研修の時に触れる実際の状況を体験する（郵便局、警察署、病院）
- ・学校教育との連携学習体験：学校の教科学習内容を英語で学ぶ（新聞の編集、化学、地理学）
- ・文化／スポーツ体験：スポーツ、美術などの文化活動を通して、自然に英語を習得させる（ナンタ、映画、ダンス、サッカー）

敷地内には 5 棟の建物があり、その中に体験室が 50 室（例：警察署、証券体験室、病院、郵便局、劇場、カラオケ、科学室、美術室、コンピュータ室、ヒップホップ体験室、放送局、ナンタ体験室、クッキング、マジック、銀行、出入国事務所、新聞編集室）ある。著者はこれらのいくつかの授業を見学してきた。たとえば、証券体験室では経済用語や市場の概念などを学習し、自分で株式を買ったり売ったりしながら自然に株式の投資を英語で体験していた（図



図4 証券体験室



図5 クッキング



図6 マジック

4を参照)。また、クッキングではインストラクターの英語の指示にしたがってクッキーを作っており(図5を参照)、マジックでは黒いマントを着たインストラクターが英語を話しながら手品を行っていた(図6を参照)。

「ソウル英語村プナプキャンプ」においても担当者に1時間ほどのインタビューを行った。「京畿英語村パジュキャンプ」と比べると民間の施設であるため、利益を

出すことを第一と考え、日本からのツアー客を取り込んでいきたいと強く考えている印象を受けた。ソウル観光のついでに、英語も学んでもらおうということで、具体的には日帰りは3時間のレッスンで40,000 won(約3,600円)と7時間のレッスンで65,000 won(5,800円)、1泊2日は9時間のレッスンで100,000 won(9,000円)と12時間のレッスンで130,000 won(11,700円)、2泊3日は20時間のレッスンで280,000 won(25,000円)などのプログラムを用意しており、人数は5名から受け入れるということであった。「京畿英語村パジュキャンプ」よりも日本人のニーズにあわせたプログラムを用意し、観光ついでに気軽に立ち寄れる施設を目指しているように感じた。

両施設ともだいたい1泊2日3食・英語のレッスン込でだいたい1万円程度でプログラムを提供できるということで、日本にある英語学習の宿泊体験施設である福島県にある「ブリテッシュ・ヒルズ」(<http://www.british-hills.co.jp/>)よりも廉価な値段で学習できるという印象を受けた。「ブリテッシュ・ヒルズ」は1泊2食の宿泊代で約1万円であり、レッスン料は別途取られる。たとえば、2泊3日の中学生対象のプログラムの参加費は52,500円であり、福島までの旅費も考えると場所と期間によっては韓国の英語村のほうが安くなる。しかし、「京畿英語村パジュキャンプ」の日本語のホームページ(<http://www.english-village-paju.com/>)は日本の旅行会社が作成したものであるが、2012年の夏に行われた「京畿英語村パジュキャンプ」のツアーの費用は、航空券込みで、4泊5日、5泊6日の場合135,000円から149,000円で、26泊27日は360,000円であり、ソウルまでの飛行機代が30,000円から高く50,000円程度であることを考えると、これらのツアーの費用が安いという印象はあまり受けにくい。上述したように「京畿英語村パジュキャンプ」は1泊あたりすべて込みで1万円と

いう廉価な価格でプログラムを提供しているが、日本の旅行会社が仲介することで中間マージンが発生し、かなり高いツアーになってしまっている。

また、「ソウル英語村ペンナプキャンプ」のほうも今後日本の旅行会社を通して本格的な募集を行っていく予定があるということで、日本の旅行会社を通した場合、今提供している値段よりもかなり高くなると思われる。英語村は安く英語を学べるということで日本人などのアジアの児童・学生を集めようとしているが、そこに、日本の旅行会社が介在することで、イギリスやアメリカなどの英語圏によるプログラムとあまり変わらない費用になってしまうというジレンマを抱えているように感じた。ただし、両施設とも個人での参加は受け付けないが、英語か韓国語が出来ればグループ単位で直接申し込みを行うことができるようである。

#### 4. 最後 に

韓国の英語村は地方自治体から援助を受けているため、プログラムの費用を高くすることはできないため、国内での利益があまり望めない。ゆえに、海外からの利用者を増やそうと本格的に動きだした。一方、韓国の英語村は日本の同様の施設よりも規模が大きく、参加費用も安い。また、日本からの受講者を受け入れる場合には同年代の韓国の児童や学生も同じプログラムに参加するため、韓国の児童や学生と共に寝食を共にしながら英語を学び、英語で交流することができるなど日本人にとっても魅力のある施設である。

しかし、本インタビューで明らかになったのは、英語村は日本人に対してかなり廉価なプログラムを提供しようとしているが、実際には日本の旅行会社が仲介することによって、英語圏への留学とあまり変わらない費用になっており、今後どれだけ日本から英語村に集客できるかは疑問である。しかし、旅行会社を通さず、韓国の英語村が廉価な費用のまま直接募集を行っていくならば、多くの日本人が利用するようになるのではないかと思われる。韓国の英語村の今後の戦略に期待していきたい。

#### 引用文献

- カレイラ松崎順子 2012年『韓国の英語教育と EBS の果たす役割』名古屋：ブイツーソリューション。
- カレイラ松崎順子・大久保奈緒・秋山道子・田邊紗也子 2007年「内容重視の初等英語教育：「総合的な学習の時間」における国際理解教育」*Language Education & Technology*, 44, 1-21.
- キム ジョンス 2011年「比較論的考察を通じた韓国型英語村の研究」『韓国比較情報学報』15, 129-158.